

活動報告

団 体 名	災害 NGO 結
活 動 名	佐賀県内の被災地域で地元組織が円滑に活動できるようなサポート事業
活動期間	2021/09/01～2021/09/30
活動の成果	武雄：おもやい 重要だが後回しになりがちな、組織運営の基盤としての事務整理や、ニーズ整理・振り分けなどを引き受けた。必要不可欠だが、外部からでの引き受けられる分野を減らすことで、地元団体や地元支援者が対住民に時間をさくことができていた。コロナ禍で受け入れに制限を作ったり、支援者の総数が少なくなっているからこそ、効率よく作業と活動を分担する必要があった。 運営サポートと同時に現場の活動にもスタッフを配置したことで、実際のニーズ対応も進めることができた。ニーズに対応するだけでなく、今回初めて災害対応をする支援者へのノウハウ提供なども一緒に実施することができた。 大町：CSO 室 SPF や PBV、OJ など支援に関わった団体が多いものの、実働できる人数は限られていた。それぞれの団体で募集するボランティアも毎日入れ替わったり、流動的な部分が多かったため、継続的に関わっていた結のメンバーが雑務を引き受けることで効率が上がった。 また、大町の支援の要と考えていた人物(役場職員)は、NPO スタッフとして過去の被災地への支援経験はあったものの、地域のキーマンとなって支援全体の組み立てをした経験はなかった。そのため、目の前のやることばかりに手がとられて肝心の復旧への道筋作りや、先手を打った活動やそのための動きができず、苦心していた。現状の整理や雑務を引き受け、地元支援者が最大限動けるように環境整備ができたことで、被災者に寄り添った支援実施に貢献できたと考える。 佐賀全体として 有明海の河口までには、高低差が少ない。満潮時にまとまった降雨があれば、水害の危険性が高まる。地形的に大きなリスクが有り、2 年で 2 度同じ場所が浸水したという事実が、今後への備えの重要性を裏付けたのではとも思う。そんな中、2 年で 2 度同じ地域に災害が発生したことで、県域の支援ネットワーク SPF も本格的な支援に乗り出していた。しかし、2 度目の対応でもまだノウハウが足りない部分が多かった。前回の被災を経験した SPF をサポートすることで、彼らとの深い信頼関係が築けたと思っている。 水害リスクの高い佐賀県、そして九州自体も災害頻度が高いため、県域のネットワークがしっかり稼働していくためにもっと基盤整備が必要である。今回の支援活動で、そうした普段からの備えのための関係性ができたことは今後への大きな力になると考える。

寄付者への
メッセージ

赤い羽根共同募金を通じて、被災地へのご支援をいただきまして、ありがとうございます。この佐賀の豪雨は2年で2度、再建したばかりの家が再び浸水するという被害でした。気候変動の大きな影響を感じるとともに、「まさか」をなくすための対策が今後も必要です。

被災された方は、これから2度めの自宅再建になります。地域全体が何度も被災する影響は、まだ計り知れません。一人ひとりの気持ちの変化にも注意が必要かもしれません。

幸い、被災地で主体的に動く地元団体がいくつか存在します。

ぜひ、地元団体を通じてなど、継続した関心を持っていただければ嬉しいです。

(活動のようす)

